

令和 7 年度の雪対策の取組について

1 除排雪事業の業務体制

◎持続可能な除排雪体制の構築

担い手不足等の課題や働き方改革に対応した安全で合理的な業務体制の構築

(1) 除雪センター機能の集約と充実

- ・市内 4 統合地区 4 統合除雪センター体制による業務体制で試行を実施
(R6の 4 統合地区 7 除雪センターから集約を推進)
⇒統合についての問合せ等はなく、集約に伴う影響は特に確認されなかった

(2) 除雪DXの推進

- ・郊外定点観測地 1 2 箇所に積雪センサー・カメラを増設 (R6は 1 箇所設置)
⇒現地の状況確認が速やかに可能となり、パトロール業務の効率化・省力化が図られた

(3) 除排雪作業における安全性向上の強化

- ・除雪企業所有の除雪グレーダ(14台)へ後方カメラやセンサー設置を推進
- ・交通誘導警備員の配置強化や作業範囲の明確化による現場管理の強化
⇒除雪企業と十分に協議し、排雪作業現場を確認するなど安全確保に努めた

2 路面管理対策

◎本市の実態に即した適切な路面管理手法の強化

(1) 極端な気象状況に対する路面管理対策

- ・12/12に12/20～21の気温上昇予報が発表(最高気温7.1℃記録)

【予防的対応】

⇒12/15～19で生活道路の圧雪を取除く雪割作業実施

【情報発信】

⇒雪割作業やザクザク対応の状況をHPやSNSで発信

【計画的対応】

⇒雪割後、生活幹線道路の排雪作業を一部前倒し実施

R6、7年度の改善要望(抜粋)

	改善要望 総件数	ザクザクで 走れない	ザクザク 要望割合
R 6 年度	8,419件	4,492件	53%
R 7 年度	5,322件	727件	14%

路面管理対策で改善要望の減

(2) 生活道路の排雪強化

⇒1回目の排雪は1月31日完了し、2月の高い気温で雪解けが進んだことから、
圧雪や幅員等の道路状況を確認しながら2回目の排雪を実施

今後の方向性

◎持続可能な除排雪体制の構築

(1) 除雪センター機能の集約と充実

- ・除雪企業や雪対策審議会、除雪連絡協議会等からの意見聴取により検証し取組を継続

(2) 除雪DXの推進

- ・市街地の定点観測地 1 箇所にIoT機器を増設し、雪見パトロールの省人化を推進

(3) 除排雪作業における安全性向上の強化

- ・官貸除雪グレーダに後方の人感知センサーを設置し、働きやすい環境づくりを推進

◎本市の実態に即した適切な路面管理手法の強化

(1) 極端な気象状況に対する路面管理対策

- ・ザクザク路面発生抑制に対し効果的な生活道路の圧雪を取り除く作業の検証と継続
- ・間口処理など雪の置き方に対する市民周知の更なる強化

令和7年度の気象や除排雪の状況

参考資料

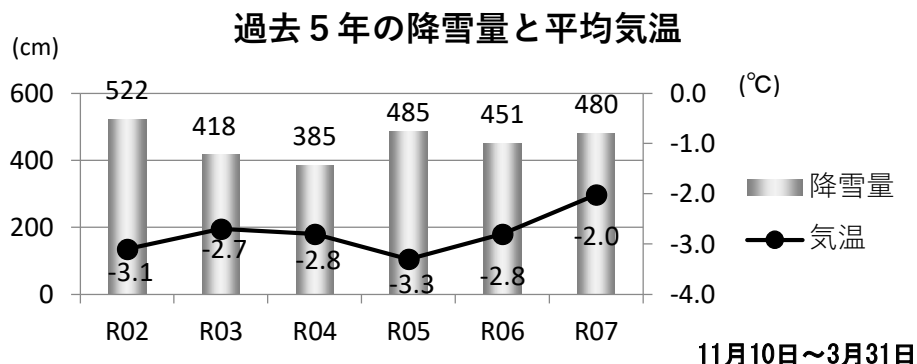


気象

★昨シーズンは、12月20日から21日にかけて最高気温7.1℃を記録するなど暖かい日が続いた一方で、26日夜から強い寒気が流入し、12時間降雪量が観測史上最大タイとなる36cmを記録し、12月末までの除雪センター開設期間中の累計降雪量は241cmとなり、大雪となった令和2年度(232cm)を超えました。

1月以降は平均的な降雪量でしたが、2月に入ると平均気温が高くなり、融雪が進みました。

除雪センター開設期間中の降雪量は480cmと過去10年平均並みでしたが、これまでの気象状況からの変化が強く表れたシーズンとなりました。



雪堆積場

★昨シーズンは、73箇所で923万m³の雪堆積量を確保し、約558万m³の雪を処理しました。

★市民が利用可能な雪堆積場9箇所を開設・運用しました。

除排雪

★除雪出動状況

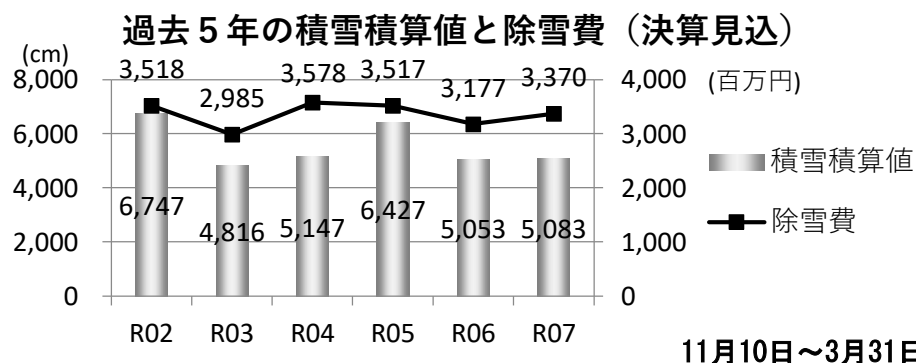
全線出動 3回 12月に暖気対策の雪割除雪実施

★排雪状況

幹線道路 3～4回 生活幹線道路 2～3回

生活道路 1～2回

※2月の高い気温で雪解けが進んだため、2回目の排雪は圧雪や幅員等道路状況を確認しながら必要な路線の排雪作業を進めました。



※積雪積算値とは、日々の積雪深を累計した値

改善要望

